

2014年6月25日
京都表具協同組合

制作した京表具師による出展 第1回「屏風祭り」

～「つくる側」から「屏風」をご紹介～

ベテランから若手まで京表具師85名が所属する京都表具協同組合（京都市右京区 理事長 田中 善茂）は、京都御所南のギャラリー「Create 洛」において第1回「屏風祭り」を開催いたします。

伝統的工芸品「京表具」の表具師たちが自ら制作した屏風を展示、祇園祭でにぎわう期間に観光客のみならず地元の方々にも「京表具」のひとつである「屏風」を、つくる側である表具師の観点から、その技法や古人の知恵を通してご紹介したいと思えます。

「屏風」は本来、風除けや間仕切りの道具として利用されていましたが、屏風絵を施すことにより芸術品として、また輸出品・外国への贈答品としても用いられるようになりました。

現代では、生活者のライフスタイル・価値観の変化などに伴い、屏風の需要が減っています。

具体的な原因としては

- ・利便性・機能が重視される日常生活へと構造的な変化が生じている
- ・冠婚葬祭・儀式など伝統的な慣習の機会の減少
- ・消費者において伝統的工芸品の「本物のよさ」や日常生活における使用・活用・メンテナンス方法等についての情報・理解が不足
- ・特に若年層において、伝統的な文化や生活に対する体験や知識が不足している

ということが考えられます。（一般財団法人 伝統的工芸品産業振興協会調べ）

そこで今回、伝統的工芸品仕様のものから、洋室に設えることを意識し曲面仕上げとした「表具インテリア『曲屏風』」まで10点～15点あまりを展示、古人の生活の知恵から生まれた本来の活用方法はもちろん、現代生活空間での使い方も提案したいと思います。



「表装」＝「屏風づくりの伝統的技術」も見てもらいたい

「表具」といえば掛軸・額と同様、屏風も面に施されている画や書に注目されがちですが、その画や書の特長を活かし、保存する技術＝「表具」の側からもご覧いただきたいと思っております。ご来場者に直に見ていただくことにより、「切る」「張る」などの表具師の技をPRし、「屏風」を身近なものに感じていただきたいと思えます。

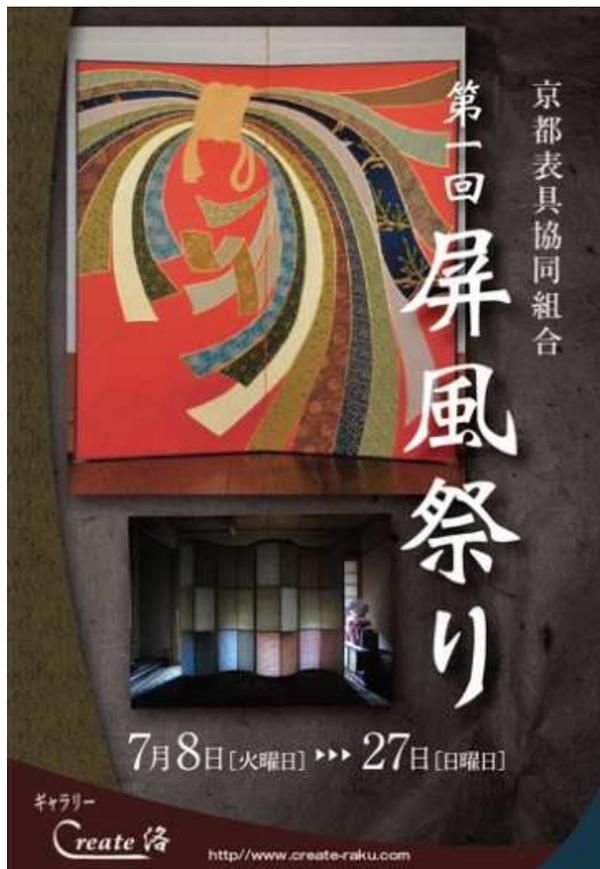
【第1回 屏風祭り】

開催期間 平成26年7月8日(火)～27日(日) (月曜日はお休み)

午前11時30分～午後6時30分(最終日は午後5時まで)

会場 ギャラリー「Create 洛」(京都市中京区 京都御所堺町御門前)

入場無料



本件に関するメディアからのお問い合わせ先

京都表具協同組合 販路拡大部長: 木南 拓也 広報部長: 藤田 幸生

〒615-0042 住所: 京都市右京区西院東中水町17 京都府中小企業会館5階

TEL: 075 (314) 5700 FAX: 075 (313) 1120

ホームページ: www.kyo-hyougu.jp/

e-mail: kyoutohyougu2007@yahoo.co.jp